



頂点を目指して —全国スポーツ少年団ホッケー交流大会—

奥出雲町で初開催となった全国スポーツ少年団ホッケー交流大会が、8月8日から11日にかけて三成公園ホッケー場で行われ、全国から小学校4年生以上で構成された男女合わせて45チーム、409人の選手が参加しました。

◆交流会・開会式(八月八日)

町民体育館で行われた交流会では、雲州算盤協業組合の岩佐俊秀代表理事から、町の特産品であるそろばん玉についての紹介があった後、選手全員が二十グループに分かれてそろばん玉を使ったストラップ作りを行いました。

初めは緊張した様子の選手たちでしたが、作業が始まると集中して取り組み、教え合ったり助け合ったりしながらストラップを完成させ、交流を深めました。

続いて開会式が行われ、安部教育長による開会宣言、選手全員による団員綱領朗読、日本スポーツ少年団を代表し(公財)日本体育協会の川島雄二事務局長からのあいさつの後、馬木・みなりホッケー1スポーツ少年団の林龍輝キャプテンと千原明音キャプテンが「全国から集う仲間との交流を大切に、支え励まし指導して下さった全ての方々へ感謝し、一緒に頑張ってきた仲間と共に精一杯プレーすることを誓います」と元氣よく選手宣誓し、大会の幕が開きました。

◆競技開催(八月九日~十一日)

九日から行われた予選リーグ、決勝トーナメント、フレンドリートーナメントは、台風接近の影響により、試合時間を短くしたり開始時間をずらすなど、天候の様子を見ながら行われました。

選手たちは、降りしきる雨風の中、一生懸命ボールを追いかけて熱戦を展開。また、各チームの保護者や地域の方など全国からたくさんの方が応援に駆けつけ、悪天候の中でも会場は大いに盛り上がり、全国レベルの素晴らしいプレーが繰り広げられました。

この大会を目標に頑張ってきた全国の選手たち。全力を尽くした激戦の末、勝利したチーム、惜しくも敗れたチームそれぞれがうれし涙や悔し涙を流す姿、お互いの健闘を称えあい握手を交わす場面など、胸が熱くなるシーンがたくさんみられました。

◆大会を振り返って

大型の台風十一号接近という予想外の状況に、一時は開催が危ぶまれましたが、仁多・横田中学校、横田高校のホッケー部員とその保護者会、成年ホッケーチーム、奥出雲町商工会、町内の学校関係者など多くの方々の協力により、スムーズな運営が行われ、無事に大会を終えることができました。

今大会は、町内の子どもたちにとって、全国レベルの相手との対戦や試合観戦など、今後の励みと

なるよい経験となり、ホッケーを通して全国の仲間と友情の輪を広げることができました。

今後、一人でも多くの子どもたちがホッケーに興味をもち、中学校、高校と全国の舞台で活躍することを期待します。



▲馬木・みなり男子チームがフェアプレー賞に選ばれました



▲「団員綱領朗読」では町内チームのキャプテンが全員をリード。

▲堂々とした選手宣誓が行われました。

▲そろばん玉のストラップ作りで交流